

ウィーン訪問記 2026.2.15-23

電源プラグ忘れた。と、気付いたのは空港に着いてから。あとで買います。ウィーンはTypeCです。金曜日の深酒のせいで、土曜日は全く仕事にならず家で一日うだうだしていました。日曜の夜の新千歳発で向かいます。日曜日は朝から大学に行って、終わらせておきたい仕事を色々と片付けます。月末のプレゼンの練習のため、録画をして関係者に確認を求めたり、昨年からずっと締切を伸ばしてもらっている原稿を書き上げたり。

さて、少し早めに行って、可能であれば少し早めに乗せてもらおうと思って空港に行ったのですが、まず行くまでがとても大変でした。今回のIAEA訪問では実験用の土壌を運ぶ仕事があるのですが、総量15kg。学生がカートにくくりつけて準備してくれたのですが、重い。そしてちょうど外に出たら雨。自分のスーツケースと二つを転がしながら駅まで向かうのですが、氷雨でダウンが濡れてしまいます。そして、グチャグチャの道のガタガタのために、カートから荷物がずれていきます。ついに外れてしまいました。付け直しても紐がビニールのへ口へ口紐で、まるで役に立ちません。結局途中で3回崩れ落ちました。その他にも何度も立ち止まり直しながら行きました。疲れました。荷物を用意してくれた学生に文句をつけるひどい先生でした（ごめん）。



それでもJRではハジに座れました。少し休めました。さて、千歳空港に到着して少しお土産を購入して、早めの便に変えてもらおうと思ったら、なんと全部満席だそうです。日曜の夕方だからかな。やむなく延々とラウンジで待つことになりました。炭酸水（麦は入っていません）でお腹がガボガボになってしまいました。

2010発は10分遅れとアナウンスがあり、実際にはさらにもう少し遅れて出発になりました。次の便は2330ですので、あまり余裕はありません。時間が短いと前回のサウジアラビアガーナの時のようにバゲージロストのリスクが高まるので嫌ですね。今回はロストしてしまうと土のウィーンへの持ち込みができなくなってしまうので大変困ります。ドーハまではJALなのできっと大丈夫だと思いますが。荷物は千歳で全て処理をしてもらって、ウィーンまで直送です。前回のロストの際には保険のカバーが結構微妙でした。確実に壊れたということでも保障してもらえましたが、途中の遅延による必要経費などは認められませんでした。そういうことも含めて今回はきちんと保険に入りました。明日からの契約です。

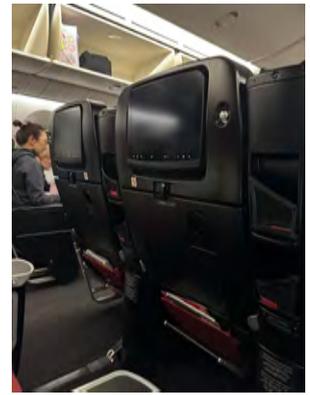


さてさて。写真の集まりで福島に行っていた妻と空港ですれ違い。とは言っても実際にあったわけではないですが。妻の写真はなぜか評価されるようです。今年の札幌芸術祭の写真部門での奨励賞（大賞の次）を受賞したとのこと。審査委員からの言葉がすごく芸術的ですが。。。妻にそんなこと考えながら写真撮っているのとは確認したら、？だって。でも何十枚も撮った中から選んだと言っていたから何か彼女なりの基準があるのでしょうか。残念ながら自分にはない才能です。

今、アナウンスがあって到着が予定より20分遅れるとのこと。結構ギリギリになってきました。今回のIAEA訪問では村島さんの研究内容の進展状況と実験に利用する土壌の運搬。そのほかにちょうどヨーロッパで研究を行っている2名の知り合いをウィーンにお呼びして、研究所を訪問してもらおうことを考えています。楽しそうです。あとはPM（国連対応の日本大使館のようなも

の)を訪問して、ずっとそちらにおられる方とお会いすることにしています。北大の取り組みを評価していただいておりますし、実際にインターンで行っている学生のことも気にかけてくださいます。ポーランドの環境放射能の研究者にもお会いする予定です。来年度のシンポジウムへの協力を依頼する予定です、

遅れて到着しましたが、空港内のバスでTerminal3まで移動し、そのままスムーズに出国審査をパスして間に合いました。席は嬉しいことにプレエコ。さらに隣が空席です。とは言ってもフルフラットではないのであまりよく寝れません。今回は羽田で時間を取れなかったので夕飯を食べそびれていたの、真夜中の機内食はとても嬉しかったです。あと、今更分かったのですが、飲みすぎると足が浮腫んでなのか、痛いとかあずましくなくて飛行機ではよく眠れないことがなんとなくわかりました。なので、今回も控えています。確かに足の調子は良いようです。そんなもんなのかな？飛行機の中ではネットが遅いけれども使え流のは助かります。



2月16日

さて、ドーハにはほぼ定刻通りに到着。トランジットの場合はわざわざ入国手続きをしなくて良いので楽です。ハブ空港はこうでないと。

ラウンジが使えたので、軽食をいただきました。卵が美味しい。ドーハは20度あります。待合室も半袖の人が多くて、雪国からやってきた自分はダウン、フリースと手荷物がさらに増えます。まあ、ウィーンでは寒いと0度くらいということですので、やむを得ないですね。Tagで荷物を調べたところ今のところドーハまではついてきているようです。今回は実験用の試料もあるのでロストバグゲージはとても困ります。問題なくまずはウィーンまで。そして税関をきちんと通して運ぶ作業があります。

今回荷物のタグはこれまで使っていたAirTagに加えてeufyというカード型の物も同時に利用しています。と、eufyを購入した直後にAirTag2が発売されてしまいましたが。ウィーン空港で荷物を待っていたのですが、eufyの方がだいぶ早く荷物のありかを認識してくれました。ということで、今後はeufyを主力として使うことになるでしょう。安いし。

税関に行き、係員に書類を見せながら荷物の説明をします。レントゲン検査、中を開けての確認を覚悟していたのですが、話をして終了。ちょっと呆気ない感じもりましたが、なんだかんだで書類作成には30分ほどかかりました。その間は税関の奥まった部屋だったのですが、すでに先客(子連れの家)がいて揉めていました。何か支払いのことで揉めているようでしたが、奥さんがご主人を一生懸命なだめていました。自分の後からも時折連れてこられては荷物の中の確認を詳細にされています。ただ、ちゃんと荷物の中身を記載している書類があると比較的感じよく対応してもらっているようです。でも、奥から係員の人は何人も出てくる様子にはちょっと威圧感を感じましたよ。さて、全てOKで市内に向かいます。ウィーン空港は鉄道が直結しているので便利です。

街までは16分で行けるというCATという鉄道も走っているのですが14.9ユーロとお高いです。自分はいつもREXやS7という普通の列車で行きます。6ユーロもしないので半額以下です。さら

に時間は数分しか変わりませんので、どちらもネットで購入しています。空港から市内行きのチケットは中心部の地下鉄、鉄道、バス、トラムの利用も含まれています。なので手間が省けるのが大助かりです。日本もインバウンドによる交通の混雑が問題になっていますが、流れをスムーズにするだけで随分変わると思うのですがね。スイカだのなんだのと色々電子化されているのだから、それくらいできるでしょと思います。さて、今回の宿はホテルではなく（ホテルは高すぎ）、小さなアパートのような場所を借りました。風呂も炊事場もついてるのが良いです。場所は一時期よく使っていたTaborstrase駅の隣のSchottenring駅から150mくらい。中心部にも近く、便利な場所です。雪が時々降っているようです。車の上に雪が積もっていました。宿には15時に到着。部屋は日本の2階です。古いアパートですが、エレベータが後付けされており助かりました。早速シャワーを浴びて一息ついて、近くのスーパーに買い物に行きました。今日はもう寝たいので夕飯と明日からの朝食の用意です。17時に食事を終えて寝ようとしていたら、これから食事はどうですかのお誘いが。。。もう寝巻きだし、寝る準備万端だったので残念ながら辞退をしました。速攻で就寝。



2月17日

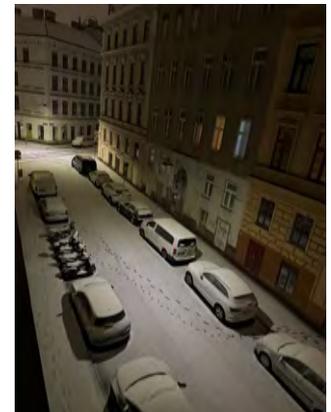
真夜中に起床。日本時間では朝ですから。外を見ると雪が降り続けています。なんか、段々積もってきているようです。。。気温はそんなに低くは無いので、べちゃべちゃ雪ですね。服が濡れるので嫌です。事前にこちらにいるインターンに天気を聞いたら「暖かいですよ。雪はないし」とのことだったので、あまり雪対策はしてきませんでした。

（やられましたね。論文仕上げで随分いじめたので仕返しですね^^）ランニング用の靴を迷って冬用を持ってこなかったのが残念です。こちらの朝までには溶けてくれると良いのですが。

朝の中心部の風景でも撮ろうかなと5時頃に出かけました。24時間券を購入したので地下鉄、バス、トラム、電車は中心部に限って乗り放題です。9.7ユーロ。1ユーロが130円の頃は安く感じましたが、今は180円ですからね。高く感じますが、7回乗ったら元が取れるし、買い忘れを避けるためにもおすすめです。

雪は止み、気温は0度前後。道路は溶けた雪でべちゃべちゃです。夏履では無理ですね。公共交通機関は24時間体制（夜中は少なくなります）で動いているので、助かります。

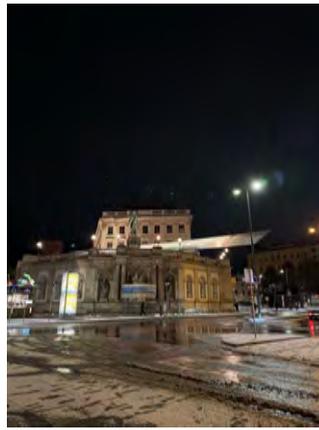
空はどんよりしていて、朝が近づいても全然明るくなりません。ちょっと残念でしたが、早朝の街をフラフラ散歩するのもなかなか楽しいものです。昼間、夕方は人がごった返しているのんびり歩けませんからね。



Albertina美術館とStephan大聖堂。

美術館、博物館には一つは訪問したいところなのですが、今回はスケジュールがタイトでちょっと難しいかもしれません。

IAEA, Seibersdorf研究所には鉄道とバスで移動します。バスはAITとIAEAが共同で運行しているバスだそうで、これに合わせて鉄道を利用しました。中央駅(Wien HBF)から鉄道でGramatneusiedl駅まで向かうのですがウィーン市内を出てしまいますので、追加料金が必要になります。重いアルミのスーツケースをしっかりと固定し直して地下鉄、鉄道を乗り継いで中央駅に向かいました。そこで皆さんと合流です。今回はヨーロッパに留学あるいはPDで働いている知り合いの学生たちも集めました。スコットランドのJames Hutton研究所で働いている黒川さん、ドイツのAugsburg大学に留学している池田さん、そしてIAEAのインターンの村島さんに手配をしてもらいました。



IAEA Siebersdorf研究所の敷地内は撮影禁止の場所もあるので注意が必要ですが、無事に入所できました。入り口は銃を持った警備員が複数配置されていて、手荷物検査も行います。で、当然アルミスーツケースの中身の確認が必要なのですが、鍵が。。。あ、しまった一つは宿に置いてきてしまった。そしてもう一つは財布に入れていたはずなのですが。。。無い。カバンを探しても無い。焦ります。警備員さんが落ち着いて探しなよと諭されて、財布を入れていたポケットを今一度探してみるとありました。危ない危ない。今回の1番の大仕事はこのケースに入っている300点以上の土壌サンプルの運搬ですので、これができないことになるとお金と時間の無駄遣いになってしまうところでした。



まずは初めて訪問した2名に取り組んでいる研究内容を話してもらいました。当然英語で、それも事前にそんなことは伝えていなかったのですが、嫌な顔ひとつせずに対応していました。こうやって、みんな成長していくのだね。自分も眠気と闘いながら(珍しく寝なかった)議論に参加してもらいました。面白いです。その後施設の見学。温室もほぼ完成です。RI温室の後は汚染検査機器などを設置すれば完成ということでした。複数の放射性核種を利用できるということで、ごく微量のCsの挙動の解析に利用させてもらいたいと考えています。その後研究所の視察を行いました。同位体解析の機器、MIRsの機器などが色々と設置されていて、後はアイデア次第です。



新しい音質はとても立派です。温度、湿度は全室で管理が可能です。あた、証明としてLED光源も用意されていました。

来るたびに少しずつアップデートされる様子に心が躍ります。

北大の温室もこのレベルは最低限必要だと思うのですがね。あと温室の管理のためのバックヤードも用意されていて、効率的に温室の作業が進められるように作られていました。

こちら辺は、ワーゲニンゲンとかユーリッヒも同様で、それがあつて（多分人材も配置）全体的に非常に効率的に進むのだと思います。IAEAでもフェノタイピングを行うそうです。

温室が完成したので次は圃場だそうです。研究所に隣接した2ヘクタール（もっとだったかも）の場所を利用するとのことでした。圃場で昔のようにアイソトープを使えるのかもしれないですね。すごい。

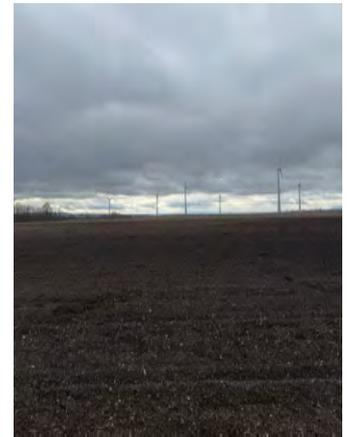
実は今回、多くの方が休暇を取っていました。話ではインフルエンザが流行っていて病欠の人が多いたよとのこと。お会いしたかった方もいたのですが会えず。残念です。

昼食は研究所の食堂で。サラダバイキングにしました。8ユーロ。美味しいです。とても。

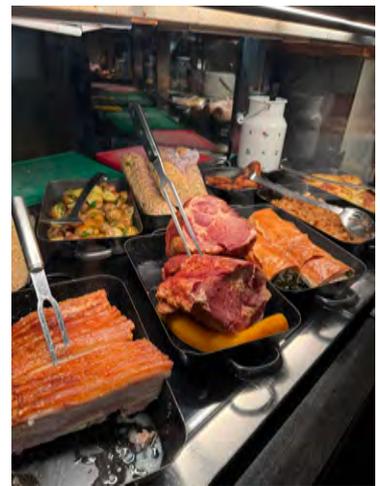
でも多くの職員は節約のためにお弁当を持ってきたり。一部をお弁当にしたりして節約しているそうです。確かにね。

午後は、ちょっと自分だけGerdと打ち合わせをしました。特に今年開催を旨ざいしてる合同シンポジウムの詳細についての調整です。日本での代替の動向をお伝えして、それにIAEAがどのような対応をするのかの事前調整です。1時間ほど行って、明日は本部で上司の方と打ち合わせをすることにいたしました。

3時5分のバスで駅に向かいます。皆さんとは中央駅で一度別れて夕食にまた集まることにしました。部屋に戻り、シャワーを浴びて横になると30分ほど寝てしまいました。日本のま夜中なのでね。眠い目を擦りながら皆が見つけてくれたレストランに。Stephane大聖堂の近くですが、大通りから奥に入ったところの静かな感じの良い感じのお店です。夜の街並みが綺麗ですね。空が晴れているので綺麗な青色になりました



た。ちょっと古い感じの良いお店でした。このお店は元々は1230年に作られた修道院だったそうです。いつから営業をしているのかは分かりませんが、旧市街になるホイリゲです。だからワインがたくさんあったのでしよう。



もう、海外ではペスカトリアンをやめていますなどと偉そうに言うのもやめます。美味しそうなものがあれば食べてしまいます。まあ、蘊蓄が言えるくらいはペスカトリアンを続けてきたから

(5年以上)、講義とかでは食の持つ環境負荷の本質については話そうと思います。途中から眠くてもうダメでした。流石に眠りはしませんでした。汗はかくし、血圧下がってきて肩こりがひどくなるので難儀しました。ホテルに戻って数分で爆睡。でも今日も030には目が覚めてしまいました。

12月18日

ろくに寝ていないのですが、帰国してからを意識してなるべく寝ないようにします。朝方ドナウ川まで行ってきました。川沿いの風景が好きです。1時間を出かけて部屋に戻り、シャワーを浴びて背伸びをしながらベッドに横になると寝落ちしてしまいました。目が覚めると待ち合わせの時間に遅れそうな時間でした。今日はIAEA本部での打ち合わせです。慌てて部屋を飛び出してなんとか間に合いましたが、なぜかすごい行列ができています。なんでも大きな会議があるためということ、セキュリティーチェックに時間がかかっているということでした。カウンターパートに遅れることを連絡して、あとはのんびり待ちます。だいぶ時間はかかりましたが無事にセキュリティーを通過しました。



皆で国連、IAEAの前で記念写真を撮ってから打ち合わせになりました。初めて訪問の2名もいたので案内もしてもらいました。良い機会になったらよかったです。以前



Seibersdorfでイ

ンターンの面倒を見てくれたMagdalineさんにもお会いすることができて良かったです。途中からは皆さんをほったらかして今年末に開催を計画しているシンポジウムの内容についての議論になりました。ここの局長にお会いした際に、まずはConcept paperを作成して提出してほしい

いということなり、その内容に応じてどのレベルのメンバーでの対応が必要になるかの検討をするということになりました。正直、大臣（その代理ですが）級の出席までを求めるのは流石に時間的にも厳しいし、対応が無理だと思いますのでそれぞれの組織の代表くらいかな。。。それでも関係各所には連絡をして、対応のことを考えてもらわなければなりません。そんなこともありカウンターパートと早速の打ち合わせでした。

さて、昼食は国連本部にある食堂です。ここは各国料理が日替わり？で提供されているので楽しいです。自分は確かペルーのイモ料理を選びました。サラダと合わせて9ユーロ。美味しかったです。

午後は自分以外の人とは別れて、帰らなければならない人にはここでお別れです。15時頃までかかって一応Cocent paperを作って、あとはメールでのやり取りにすることにしました。

午後は常設代表部（PM）を訪問します。実は以前からインターンをIAEAにお願いするときにはここを訪問して意見交換をしています。先方も日本からのインターンには気をかけてくれており、時々行事に誘ってくれているそうです。また、こちらで何か問題が発生した時にはサポートをしていただけるということです。

夕食は、10年来の知り合いが席を予約してくれました。梟という名前のお店です。良い感じのお店で楽しみました。食べたのは牛肉と豚肉のミンチをハンバーグにしたようなものです。卵焼きで隠してあるのでぱっと見では分かりませんね。ここで皆さんともお別れです。明日は早朝からポーランドへの移動です。

2230頃に部屋に戻り速攻で寝ましたが、2時間ほどで起床。明日からは会食は予定していないので早めに（日本時間に合わせて）寝れることだと思います。

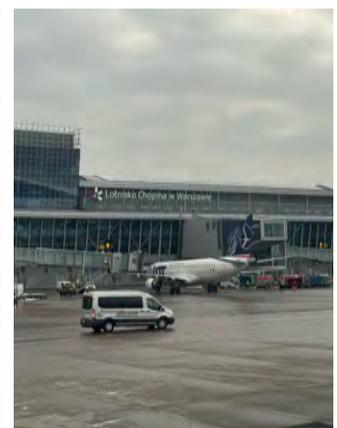


2月19日

8時の飛行機なので早めに行き、こちらの5時からのオンライン会議に備えることにしました。部屋で終わらせてからが良いか、ついてからが良いかを悩んだのですが空港に遅れるのは避けたいので。鉄道の駅までは1kmほどなので歩いて行ける距離でした。朝食は空港でコーヒーとプロシュート。

オンライン会議も無事に終了し、ワルシャワ行きの飛行機も定刻通りに離陸してくれました。

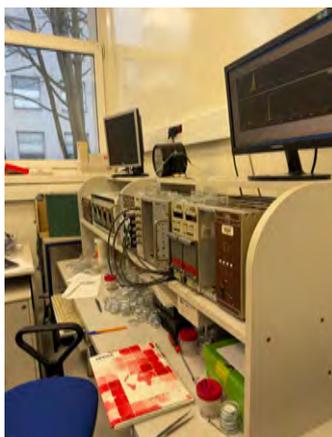
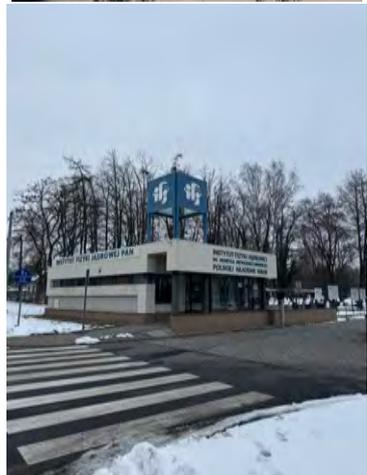
ポーランドは初めてです。何回か行けるタイミングはあったのですが、他の用務と重なってダメでした。昨年はENVIRAがクラカウで開催されたのですが、土壌肥料学会と重なったので流石に無理でした。今回はそのENVIRAを主催した先生を訪問する予定にしています。ただ、メールの連絡が時々うまく行かないことが



あって（お互いに届かない）、最終的な時間の確認がまだできていないので、ちょっとドキドキです。ワルシャワはショパン空港という名前なんですね。次のクラカウ行きが3時間後の出発なので空港の中で大人しく待機します。1万円くらい両替しておこうと思います。ポーランドはEUですが通貨は独自通貨を利用しているので、レストランなどはチップがある方が良いということだったので、現金は必要そうです。今年に入ってから通過情報で1ズオーイは40円程度とあったのですが、実際には50円でした。そしてこのカフェラテが1500円。空港とはいえ、これはないだろうという感じでした。ま、ある程度は腹を括って過ごさないとつまらないのでね。30分遅れで離陸。最後の連絡がまだできていないので不安が増えています。

ポーランドは雪が薄く全体を覆っている感じで、寒そうです。ウィーンから来た道を途中まで戻る感じでクラカウに到着しました。やっと時間についての連絡が取れました。相手もこちらからの連絡が途切れ途切れだったとのことでヤキモキされていたようです。研究所は空港からクラカウの街中に向かう途中にあります。鉄道が走っているのですね。チケットの買い方がよく分かりません。自動販売機があって、いく駅名を入力するタイプなのですが、こちらが行きたい場所が出てこないで困りました。と、ホームの奥に人がいる販売所があるではありませんか。そちらに行ったら問題なく購入できました。（結局券売機はその後もうまく使えませんでした）

ここは国立アカデミーに所属している研究所でセキュリティーがしっかりしています。入り口でパスポートチェックなどを受けてようやく入所できました。過去にも学会でお会いしたことがある方で、先方も自分の顔を覚えていました。ここはグローバルフォールアウトの問題以後、ポーランドの土壌、大気、水の継続モニタリングを行っている研究機関です。低バックグラウンドにするための工夫など見せてらい、あとはこれまでのデータに基づいたお話を色々。



測定はアルファ線、ベータ線、ガンマ線を全て対象としていました。他の研究員の方が帰ってから話を続けさせていただき、結局外に出た時には真っ暗でした。ありがとうございます。そして明日現地を案内していただけることになりました。宿はホテルです。中央駅の隣の駅なので街中ですね。そこまでの切符は結局アプリを使って購入。シニア割（30%）もつけられます。列車に乗ったらちょうど切符チェックをしている方の目の前でした。ただ、ポーランドは切符を持っていない人にも普通の値段で販売しました。（結構周りの人の多くが持っていませんでしたが、空港からの鉄道だから多めにしているのかもしれませんが。事情の詳細は不明）

お腹が空きました。適当に近くのレストランに入り、ハンガリーの餃子のようなピエロギと、ハンガリーのビール。美味しかったです。ホテルは朝食が付いているのですが7時からだそうです。明日の出発が5時頃ということになってしまったので、朝食が食べられないどころかこちらの5時と6時から開催される会議とセミナーに参加できません。いつもいつも欠席が多くて反省至極です。早朝は大丈夫と思っていたのですが、先方から早朝指定で言われるとは予想していませんでした。



2月20日

030起床

5時すぎに迎えが来るといことで準備。朝食は自分でということだったので、近くのコンビニ（Carrefour expressという24時間のスーパーが展開しています）でパンとヨーグルトとコーヒー。ヨーグルトは道中飲むことにします。

まず向かったのはアウシュビッツ収容所です。第一収容所には有名な働けば自由という門があります。ガイドも写真は自由だけ



ど、撮ってはいけない場所もあるし、この場所は普通の観光地とは違うから配慮をしてほしいと言っています。その通りですね。息が詰まるような空気感は本当に身につまされます。ここはソビエト軍によって解放されたということもあり、ソビエトから提供された記録などが多く展示されていました。当時のヨーロッパではハンガリー、ポーランドに多くのユダヤ人が住んでいたということですので、ソビエトに対しての想いはその後の共産圏の中にもめられていた時代を考えると複雑なものがあるのだと思います。でも過去をきちんと見つめて2度と過ちを繰り返さないとかの言葉が残されていました。勇ましいことを言うだけが能ではないということなのですが、現実には自国主義、自分主義、選民思想が世間を賑わしています。今一度、皆さんがアウシュビッツ収容所やガーナでの奴隷船の出港場所などを訪問するなり、思いを馳せてほしいと思います。



外の気温は-5度。寒かったです。残された写真には足が凍傷になった子供の写真などもあり、煉瓦造りとはいえ、すきま風だらけのバラックで冬を過ごしてきた人々のことを思わずにはいられません。

下の写真は左からチクロンB（効果が出るまでの時間と価格で決まったそうです）、最初のガスによる抹殺がおこなれたガス室、そしてアウシュビッツ第2収容所



第2収容所は広大な敷地にバラックがあります。まだ建設中だったところで解放されたそうです。汽車で運ばれてきて、選別が行われます。男女のみならず、子供や老人、病人は仕事ができないとして別のグループに分けられたそうです。

ここは巨大なガス室が4基あったそうですが、解放直前にドイツ軍自ら破壊して証拠消滅を図ろうとした痕跡だそうです。

こちらの収容所の環境はさらに悪くて、基礎をちゃんと作らずに作った板敷のバラック、窓ガラスを入れていない部屋が並んでいました。寒かったことが、彼らの置かれた状況をより親身に感じてしまいました。でも、その先に希望がない状況などを簡単に想像できるでしょうか。とても無理です。カウンターパートが見せたかったことなのかもしれません。



アウシュビッツ収容所の後に、岩塩鉱の視察に行きました。

Wieliczka岩塩鉱と言われる鉱山で世界で最初に世界遺産に登録されたものの一つということでも有名です。昼食はなかに入る前に近くのレストランにて。ここの減塩を使ったランチセットがあって、それを食べたかったのですが、お店に入るとそこは中国でした。満席でさらにどなたかの誕生日のお祝いまで始まっていたので席の有無を聞くまでもなく早々に退散。別のお店で鴨肉の何かをいただきました。

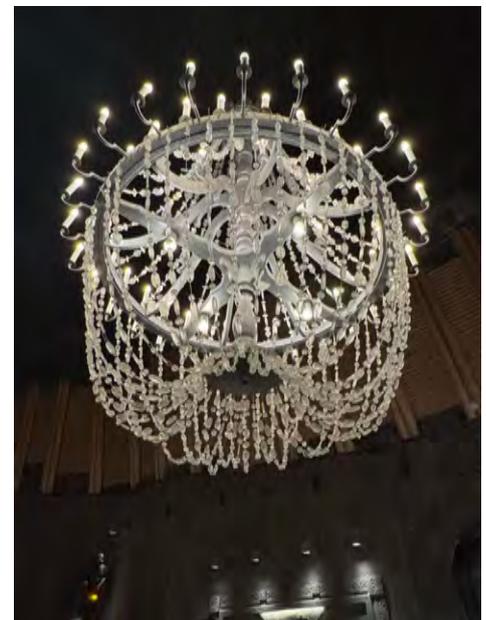
炭水化物はこちらの標準として麦ジュースをいただきました。ゆっくりとくつろいでからいよいよ鉱山の中に入ります。非常に大きな鉱山だということで、



全長は300キロ。今回は3kmを歩くそうです。最深135mのレベル3まで行くということです。実際にはレベル9までであるということでした。大きな岩塩鉱山です。過去にはポーランドの外貨の30%位を稼いでいたということです。木材を組んで補強をしているのですが、次第に塩が染み込んでいき木材が岩石のようになっていきます。また、場所によってその純度に違いがあるということで、綺麗なところは上から光を当てると奥まで透明になっているのがわかります。すごいですね。塩の結晶の中に自分たちが入り込んでいるような錯覚を覚えます。何もかもが塩で作られていました。圧巻は大聖堂。ここの彫刻やシャンデリアも岩塩です。岩塩のシャンデリアなんて素晴らしいですね。



ここでも時々食事会などが開催されるそうです。岩塩に囲まれた中では空気の清浄度が上がるということでした。真偽のほどはわかりませんが、ただし、過去には坑道の中でメタンガスが発生して事故が起きたこともあるとのことでした。ガス検知器が導入される前は、長い棒に火をつけて、それを坑道の中に差し込んで燃えるかどうかを確認していたそうです。かなり乱暴な感じもしますが、背に



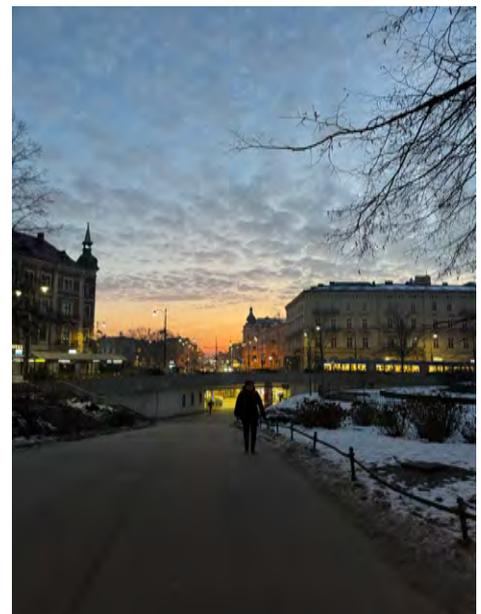
腹は変えられなかったのでしょうか。給料が塩で払われていた時もあるということです。塩、Salt (スペイン語ではSal) から英語のサラリーやスペイン語のSaldoという給料を表す言葉ができています。また、欧米ではお金のことを手で示すのに親指と人差し指を擦り合わせる様子で示すことがありますが(上向きで)、これを下向きにすれば塩を摘んでいる様子です。地下の湖や川もありました。飽和食塩水だそうです。指をつけてみましたが、痛くなりました。舐めたらしょっぱいこと。



貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございます。
ホテルに戻ると1730。いくつか良いポーランド料理店を教えてくださいましたが、疲れました。眠いし。なので近くのスーパーでパンとビール。明日はホテルの朝食が楽しみです。

2月21日

いつものように深夜に目が覚めて、昨日参加できなかった研究室のセミナーの録画を確認して、少しコメントを入れさせてもらいました。メールのやり取りをした後に、せっかくのクラカウ（旧首都だそうです）なので、街の様子を見ておきたくて530頃から1時間ほど散歩してきました。古都という感じが本当にします。お城、教会、広場があって、そばに大きな川が流れている



という様子に感激してきました。マイナス5度で結構寒かったのですが、雪はわずかにしがか積もっていませんでした。

シャワーを浴びて7時からの朝食です。コーヒーが今ひとつでしたが他は満足の味でした。パンに色々な種類があって良いですね。パテがちょっと変わったパテでした。あまり肉っぽくない味でした。このホテルはBooking.comで予約していたのですが、変更ある可能性があったので現地払いにしていました。すっかり忘れていました。

こちらの交通網はJakdojadeというアプリでチケットを購入できます。研究所からホテルに行くのに利用しましたが、最初に25ズオーイも入金してしまったので使いきれないかもしれないと心配していました。ワルシャワまでは50弱なのですがちゃんと入金したお金も使えました。さらに、不足分のお金は必要最小限の支払いでよかったので

無駄にしないで助かりました。さらに、空港からは知らなかったのですが、こちらは60歳以上は30%割引です。外国人はダメだなんて意地悪を言うこともなく快く（アプリだけ）割引していただきました。ワルシャワまでは2時間半から4時間半くらいの間で値段もそれに応じて様々なオプションがあります。安くて早いのがベストです。探してみると適当なのがありました。50ズオーイもしない金額ですみました。途中で乗り換えが必要なので、列車が遅延しないことを祈りますが、JR北海道のように遅延はしないので大丈夫でしょう。こうやって比較していると日本は物価も安いけど、列車はすぐ止まるし時間通りに計画が進まないのはどちらかという日本のような気がしてきます。ガラパゴス状態で自己満足しているうちにどんどん置いてけぼりになっているような気分がしてしまいます。

さて、Czestochowaという駅でICに乗り換えです。この駅も大きな駅ですね。ホームが違う上に待ち時間が10分も無いのでちょっとバタバタとしながら移動します。どこかで飲み物を買いたかったのですが、ホームに売っておらず断念。

ICは満席です。ここも30%割引で購入しました。今までIDの提出は求められなかったのですが、今回車掌さんにIDの提出を求められました。パスポートを見せると内容を確認して無事にパス。

さて、ワルシャワ中央駅に到着し、降りる時にあやううやらかすところでした。隣に座っていたお姉さんが携帯を持ってきてくれました。はいどうぞ。。。またしても椅子に置き忘れていたようです。こちらでやらかしたらもはや諦めるしか無いところだったのに、本当にありがとうございます。紐までつけていたのですが、紐を外していたら意味ないですね。

ウィーン行きの飛行機は夕方遅めなので、少しだけ街を散策することにしました。まちが違ってクラカウで入れたアプリが使えるのは便利ですが、ワルシャワはチケットを購入し、乗る際にアクティベートしなければなりません。一回券は20分の制限がついています。最初のバスではそれ



が分からず（QRコードを移してアクティベートすると買ってあったのですが、それが見つからない）、慌ててカードで購入しました。車内に券売機があるのは助かります。で、よく観察したら天井近くにありますが、それも手すり邪魔して撮影しにくい場所です。これは分からないよ。でも一度覚えたので次は大丈夫と思います。旧市街を少し散策して帰ることにしました。バスに乗って地図を見ていると、なんと目的地から離れていくではありませんか！乗る方向を間違えました。慌てて降りて反対車線のバス停に移動して正しいバスを待ったのですが、20分の制限時間が過ぎてしまいました。うーん。よく分からない無駄をしてしまいました。もう少し長い時間にしてもらいたいものです。それでもなんとかワルシャワ中央駅に戻り、駅から空港までのチケットを購入し（安い。4.4ズオーイなので200円くらい）、無事に空港。昼食は駅でパンを食べて済ませました。なかなかのんびりできないです。空港に向かう途中細かい雪が降り出しました。そういえば金曜日はウィーンは大雪で大変だったそうです。飛行機も飛ばない・着かないということだったそうです。今日は大丈夫なようですが、相変わらず綱渡りですね。無事に帰国できますように。



空港では残った現金でお土産を色々。お世話になっている、もとい、ご迷惑をかけている方々が沢山いるのでお土産の数が多くなり大変です。オーストリア航空での予約ですが、機材はDoromite航空というイタリアの航空会社でした。初めてです。アテンダントの皆さんがずいぶん雑な感じの飛行機でしたが、順調にウィーン。空港には特に雪が残っていることもなくすでに雪の影響はないようです。



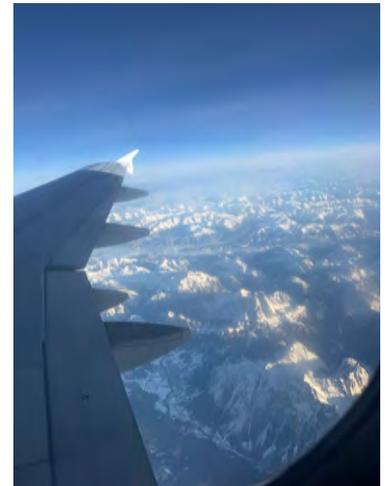
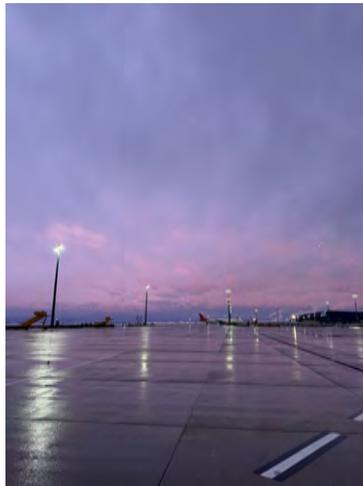
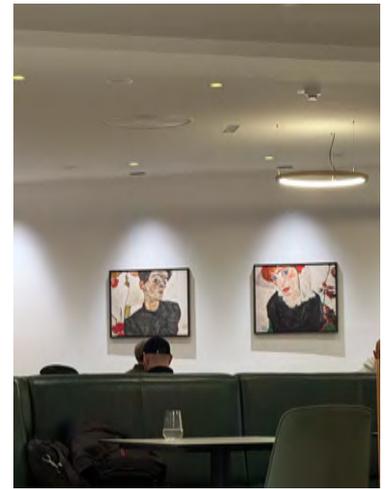
翌朝7時の飛行機なので、空港の近くのホテルにしました。シャトルもあるように買ってあったのですが、結局は時間も合わないし、それなりの金額も取ることから使わず。空港の駅から二つ目の駅から歩いて1kmの場所にあるホテルにしました。運賃が安い。2.2ユーロ。これは助かります。それでも真っ暗な夜道をトボトボと歩いていくのはちょっと疲れましたが、まあやむなし。宿には22時頃に着。多分近くにスーパーもないだろうと判断して、空港のスーパー（以前はSPARがあった場所に今はBILLAが入っていました）で食べ物とビールを購入しておきました。シャワーを浴びて、食事をしてすぐに就寝。

2月22日

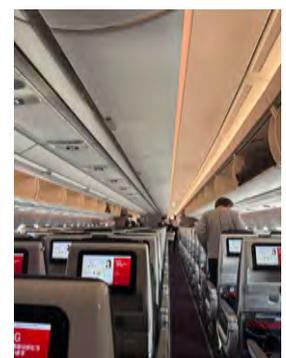
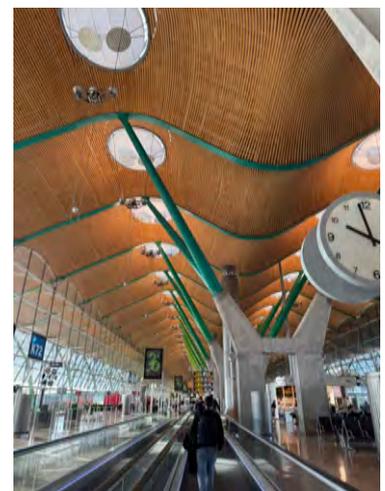
一応目覚ましをかけておきましたが4時ちょうどに起床。もう一度シャワーを浴びて、荷造りをしてホテルを後にしました。メッセージに昔の学生から子供が生まれたと、子供の写真と一緒に連絡がありました。おめでとう！！今回のIAEA訪問も彼女が一番最初のきっかけだったで、これも何かの縁かもしれませんね。435の汽車に乗って、5時にはカウンターで手続きをしていました。今回はイベリア航空でマドリッド経由での帰国です。ラウンジを利用できたのですが、Vieenaラウンジ。このラウンジはLeopold美術館が協力しているそうです。Leopold美術館は



ウィーンで一番のお気に入りの美術館です。かなりの頻度で訪問するのですが、今回は時間がなくて中に入ることはできませんでした（未練がましく建物の近くまでは行きました）。ラウンジの中には所蔵している作品のレプリカが壁に飾ってあります。どれも良い感じで、まるで美術館の中にあるようです。エゴンシーレの作品が中心に展示されていることに加えて、照明の雰囲気も彼らが活躍したヨーロッパの雰囲気を顔し出していました。こういうラウンジ良いですね。気に入りました。飛行機は定刻に出発。バスでの移動だったので、飛行機に乗る前に一枚。空港に着いた後に雨が降ったので、空が白んできた雨に濡れた空港です。飛行機は満席です。アルプス超えてマドリッドに向かいます。綺麗な山々が連なっています。機内でPCを広げながら思ったのですが、狭い。前との間が日本の航空機に比べて狭いと思います。



マドリッド空港は久しぶりかな？ずいぶん雰囲気が変わりました。EUと非EUの乗客をなるべく効率的に分けるようにして人の流れを制御しているようでした。非EUの人たちも電子パスポートを持っている場合には出国手続き（EUからの）が簡便化されていました。イベリア航空の巨大なラウンジを使わせてもらえましたが、とても巨大でありラウンジ感がなかったですが、マドリッドまでの飛行機の中はほとんど寝ていて朝食にありつけなかったのでもちよよかったです。さて、次は成田までです。搭乗口のところで止められて何かと思ったら席を変えてくれました。プレエコです！行きも帰りもなんだかラッキーです。ビジネスではないですが、横との間隔、前との間隔も少し広くて助かります。でもなぜか隣の人と自分のモニターが作動しません。時間つぶしには機内エンターテインメントは助かるのですが残念です。Prime VideoでDLしておいたものがあると思うので、寝るかそれを観るかかな。でも寝ます。今回は朝からの活動が結構多かったので、時差がなくなりそうです。日本に帰ってから苦労するのでなるべく日本時間で過ごしたいところなのですが。結局よく寝れたみたいです。熟睡はできませんでしたが、ラウンジも含めてお酒を控えたのも良かったのかも。成田空港から羽田空港まではバス。少し早い便に変えてもらいましたが、



最後の一席は一番後ろでした。受験生がたくさん。

ホテルを出てから自宅までスムーズでしたが、大体30時間。遠いね。

今回は、雪と微妙な追いかけっこになりました。出国翌日から札幌は大雪、ウィーンも着いた日の夜中は雪。木曜日にポーランドに移動したら金曜日はウィーンで大雪。もし、金曜日にウィーンからの移動を予定していたら（ポーランド訪問がなければそうしていた可能性が大きい）飛行機の変更、宿の追加だのとかなり面倒だったことは想像に難くありません。この間も北海道では休校になるほどの大雪（多分今年3回目?）。そして羽田空港ではなんと20度。

あまりお土産を買う余裕がなかったので。今回はこんな感じです。今日は日曜日だと思っていたのですが、月曜日の休日ですね。すっかり勘違いしていました。明後日は後期試験ですね。その対応の業務があるので、ちゃんと間に合いよかったです（一応一日余裕を持って帰国予定にしていました）。

